

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室では、大阪がん循環器病予防センターとの協働により「地域住民を対象とした血中活性型ビタミン D 濃度と血管内皮機能障害に関する疫学研究」を実施しています。

【研究課題名】

地域住民を対象とした血中活性型ビタミン D 濃度と血管内皮機能障害に関する疫学研究

【研究期間】

倫理委員会承認後から 2020 年 3 月 31 日まで

(研究対象地域との調整により、倫理委員会の承認のもと、延長することがあります)

【研究の意義・目的・方法】

高血圧、心筋梗塞、末梢動脈障害のリスクを上昇させる可能性が指摘されているビタミン D 欠乏症について、日本の地域住民における血中活性型ビタミン D 平均濃度とビタミン D 欠乏症の頻度、それから、ビタミン D 欠乏症と血管内皮機能障害との関連を明らかにします。具体的には、2014 年～2017 年の循環器健診で血流依存性血管拡張反応 (FMD) 検査に参加した秋田の自治体の 40 歳から 79 歳住民約 400 人を対象に、凍結保存血清から血中活性型ビタミン D (25(OH)D) の測定を行い、身体因子、生活習慣、社会経済心理要因の情報と合わせて、血管内皮機能障害との関連を究明します。

【研究結果の公表】

研究結果は学会や学術雑誌で発表するとともに、研究対象地域に還元します。研究対象地域のホームページや広報等に概要が掲載されることがあります。

【研究代表者】

大阪大学医学系研究科公衆衛生学 教授 磯博康

【研究組織】

協力研究機関

大阪がん循環器病予防センター (責任者・木山昌彦副所長)

【個人情報の保護について】

本研究では、秋田県井川町より健康診査の検査項目や、レセプト情報、異動情報、疾病発症情報などの保健福祉医療等の保健事業資料の提供を受けて研究を実施します。これには個人情報として、氏名、生年月日、住所、個人を特定するための番号が含まれます。個人情報は協力研究機関において厳重に管理され、本研究以外の目的に使用されることはありません。

ん。 研究を行うにあたっては、分析の段階で個人情報を削除し、番号などに置き換えたデータベースを構築した上で、大阪大学又は協力研究機関において集計・解析を行い、集団全体の分析結果として公表し、又は対象地域の保健事業に還元します。個人の結果が公表されることはありません。メタアナリシスなど他の研究機関との共同研究に参画し、その一部として利用する場合がありますが、その場合も氏名などの個人情報を含まないデータだけを利用します。したがって、この研究により、住民の皆さまが不利益を受けたり、危険性が生じる可能性はまずありません。

【本研究に関する問い合わせ先】

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 mkyomu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp